

祝 辞

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課

特別支援教育調査官 堀之内恵司

第55回全日本聾教育研究大会島根大会が、島根県立松江ろう学校を主管校として開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

現在、新型コロナウイルス感染症の拡大が未だに続いており、全国の特別支援学校（聴覚障害）におかれましては、多くの行事や学習活動の変更を余儀なくされ、感染症の予防とともに学校の新しい生活様式といった、これまでと異なる対応を日々求められておりますが、子供たち一人一人が安心・安全な学校生活を日々送ることができますことは、各校の取組の賜物と考えております。心より感謝を申し上げます。

このような状況の下、今年も動画配信やWeb会議システムなどを使用し、本大会の授業研究分科会や記念講演、研究協議分科会が予定通り開催されることとなりました。まだまだ多くの研究会が十分に開催されない中、ICTを活用した開催方法により、本大会が開催されますことは、主管校を始めとする関係の皆様のご尽力によるものと思います。

本大会は、「子どもたちが自分らしく主体的に生きる姿を目指して」をテーマとして開催されます。大会テーマに込められた、子どもたちが「生きる力」を身に付け、自分の人生を自ら切り開き、社会をつくる主人公として歩いていってほしいという思いは、新しい学習指導要領等で重視されていることでもあり、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、子どもたちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む上で大変意義深いものと考えます。

ICTを活用した開催ではありますが、本大会を通して、子供の実態の捉え方や指導の意図、学習や調査の結果に対する解釈や成果をもたらした要因などについて、子供の発達を見通しながら率直に議論し合うことが、専門性の継承・共有につながるものと考えます。対面での開催ではないからこそ、授業や研究に対し「自分はどのように考えるか」、「自分は何を学んだか」、「自分ならどのように実践するか」といった活発な議論を通して、各参加者が聴覚障害教育の継承・発展すべきことを共有する、またとない機会となりますことをご期待申し上げます。

結びになりますが、本大会の開催準備に御尽力された主管校はじめ中国・四国地区や関係の皆様は厚く御礼申し上げますとともに、全日本聾教育研究会のますますの御発展と会員の皆様の御活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。